

九樹大橋竣工式

右城 猛

平成 22 年 3 月 21 日、10 時 30 分より四万十市で九樹大橋の竣工式があった。予備設計と実施設計を(株)第一コンサルタンツが担当しており、招待状を頂いていたので、松田調査役と小野係長と私の 3 人で出席させてもらった。

市道九樹三原線が一級河川中筋川を渡るところに架けられた橋長 135m の 3 径間連続プレートガーダー橋。九樹橋が老朽化していたことから、新しく架け替えられた。



平成 22 年 1 月に竣工した九樹大橋



四万十市の田中市長，白木副議長，中村河川国道事務所の熊岡副所長，九樹地区の濱田区長，地区の 2 人の児童によるテープカット。



杉本整史氏を先頭に三世代渡り初め



中村宿毛道路の高架橋の下に，有岡地区と九樹地区の住民が大勢集まり，餅投げをして九樹大橋の竣工を祝った。



九樹大橋の右岸上流の親柱には，エノキ舟戸の写真が入った銘板がはめ込まれている。右岸上流の親柱には，その謂われが書かれた銘板がはめ込まれている。

『清和天皇の時代，宮中の桜，橋が枯れんとする時，寺山の僧と足摺の僧が詔されて祈祷して再生させた。

天皇から褒美をもらって帰る途中九樹で法くらべをした。

足摺の僧は熊越坂で祈って雨を降らせた。それで九樹周辺では晴天の時でも俄雨の降ることがある。九樹の私雨という。

又寺山の僧は枝を立て帰ったところそれが根付いて榎木となり榎舟戸という。』